

第 11 回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

議事要旨

日 時：令和 5 年 3 月 9 日（木） 15：00～17：00

場 所：W e b 会議

1. 開会

2. 開会あいさつ

(中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長)

3. 委員長挨拶

4. 議事

(1) モニタリング委員会の概要

特に意見なし。

(2) バイパス運用計画の検討について（土砂収支部会・環境部会の報告）

- ・ 復旧後のコンクリートインバートの摩耗量について、今後のバイパス運用で経験を重ね、摩耗量の実績より摩耗予測式を検証していくことで良い。
- ・ バイパスを運用することで摩耗・損傷は必ず進行するため、できる限り早急かつ簡単に補修できるような対策を検討しておくこと。
- ・ バイパス運用に関して、一時中断・監視する基準を設定する方針について了解されたが、今後も引き続き、摩耗の実態を把握しながら、最大限バイパスを運用できるような柔軟な基準に修正していく必要がある。
- ・ H30 年度などの過去の洪水で検証し、運用中断の条件を想定しておくこと。また、2mm 以上の土砂の移動状況に着目して検討すると良い。
- ・ バイパス運用に関しては、洪水調節の視点からもしつかり議論が必要である。
- ・ バイパスを最大限運用するためには、年間通した融雪出水等での運用や、貯水池の回復状況を予測しながらの運用など、総合的な判断に基づき、効果的な運用方法を検討していく必要がある。

(3) 土砂収支計画について（土砂収支部会・環境部会の報告）

- ・ 近年、貯水池の堆砂が大きく進行しており、今後の堆砂の変化状況やコンジットゲートからの排砂状況を把握していくことが重要である。

- ・ 今回の土砂収支部会・構造部会では、ダム貯水池の堆砂進行を鑑み、今後はバイパスの運用方法だけでなく、貯水池の掘削や還元方法も含めたダム全体の土砂管理の検討の必要性が示された。

(4) 環境部会の報告について

- ・ 水域環境だけでなく、今後は陸域環境の変化にも着目した方が良い。陸域環境の変化の分析にあたっては、環境基図調査の群落ごとの面積変化を経年的に整理すること。なお、分析方法については、随時相談すること。
- ・ 下流河道の河床変動状況については、出水との関連も含め、長期的な視点で変化傾向を把握していくこと。

(5) 今後のモニタリング調査計画について

- ・ 今後の各部会の調査・検討スケジュールについて、提示された内容で概ね了承された。

(6) 今後の検討スケジュールについて

- ・ 土砂収支部会では土砂を最大限排砂したい一方で、環境部会ではレスポンスの観点よりどの程度の土砂量を許容できるのかを議論していく必要がある。
- ・ 管理システム構築についてはこれまであまり議論しておらず、降雨量、流量と土砂量、摩耗量、環境への影響、貯水位の回復などの各予測を踏まえたシステムとなるため、今後も十分な議論が必要である。

5. 閉会

参加者

(委員)

- ・ 辻本委員長、猪股上席研究員（石神委員代理）、萱場委員、川崎委員、鈴木委員、角委員、戸田委員、藤田委員、溝口委員
- 【欠席者】 沖野委員（後日個別に説明）、福島委員

(オブザーバ)

- ・ 中部地方整備局 河川部 河川保全管理官 松原充幸
- ・ 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所 事業対策官 土屋郁夫（事務所長代理）

(事務局)

- ・ 小野事務所長、桑原管理課長、林専門職、梅原施設改良係長